

定期巡回Life 定期巡回・随時対応サービス 自己評価・外部評価 評価表 2025年度5月開催分

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			できている	るほ ぼで きてい	でき とが 多い ない	な全 くで きてい		
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]								
(1) 理念の明確化								
サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	○				「住み慣れた家で、自立した生活ができるよう支援し、要介護状態の軽減、悪化の防止及びご家族の身体的・精神的負担の軽減を図る」ことを理念に掲げている。	
(2) 適切な人材の育成								
専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している		○			職員間での認識の差は見られるが、理解を深めるよう努力し、より質の高いサービスが提供できるように努めている。	
	3	運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している		○			法人内の研修は職員全員が参加できる体制を整え、参加を促している。外部研修に関しては、定期巡回サービスに関する研修に年数回参加している。	
	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	○				職員個々の能力が発揮されるよう、配置、検討し、行えている。	

介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	○				日々の電話等での情報共有、連携推進会議や連絡先の訪問看護ステーションとの会議により行えている。	・日々の記録の確認を行い情報が共有できている。・利用者の変化など介護職員さんよりこまめに連絡頂いています。
(3) 適切な組織体制の構築								
組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている		○			利用者の状況の変化に対応できる職員配置や、職員間での情報共有、連絡、相談を常時行える体制を構築している。	
介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている		○			要望、助言に対して、速やかに対処し職員間でも共有できている。	・介護、医療連携推進会議は適切に行っており、要望や助言等に対応もできている。
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備								
利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				インターネットを活用したシステムを使用することにより、利用者の状況を迅速に共有できている。	情報収集、共有時について、写真屋動画を使用される事があると思うが、引き続きご家族、本人の同意をその都度お願いしたいです。
(5) 安全管理の徹底								
職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)		○			緊急連絡先や、夜間の安全確保など行い、社用車の点検、冬用タイヤの交換など行っている。災害時の緊急体勢等マニュアルの確認、研修を行っている。	

[illegible]

計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	○				利用者や家族の状況に合わせて、定期巡回サービス、随時対応サービスの日時を設定し、サービス開始後も常時訪問状況を見直す等、柔軟なサービス提供を行っている。	・サービス導入後利用者の生活リズムをアセスメントし、それに沿った支援を心がけて下さっています。
継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	○				継続的なモニタリングを実施し、状況・状態の変化の把握を行い、適宜対応し、計画に反映している。	・状態の変化を把握し必要時は伝達、相談してもらっている。
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供								
介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を活かした役割分担が行われている	○				利用者の状況や体調に応じて検討の上、サービス提供している。	・介護、看護それぞれの対応を分担、協力しながら効果的なサービスが行えている。
看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	○				看護師による毎月のアセスメントの結果や、利用者の病状の変化がある際に、予後予測や介助時の留意点について、助言、指導を適時いただいている。	・看護師からの助言等に適切に対応されている。申し送りもきちんとできている。・事業所からの気付きの報告、改善提案を頂き助かっています。
(4) 利用者等との情報及び意識の共有								
利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている		○			サービス開始前に必ず説明は行っているが、認知症の方が多いこともあり、理解を得にくい場合もある。その場合は可能な限りご家族に説明を行っている。また、サービス開始後も必要に応じて説明を行っている。	個々の利用者によりサービス方法、回数などが異なる為説明が難しいと思いますが、丁寧に対応してもらっています。

利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている		○			計画書を作成する際、目標・内容について説明を行っている。	
	21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				情報共有ソフトや電話等で、適時適切な報告・相談を行っている。	・実施されている。・適切な情報を得られています。
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント								
(1) 共同ケアマネジメントの実践								
利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	○				ケアマネジャーからの情報やサービス提供要請に基づき、事業所内でも検討の上、サービスの提供日時を決定している。日々の状況も電話やインターネットシステムを使用して情報共有している。	必要に応じてその都度の連絡にて共有されている。
	23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている		○			必要に応じて提案できている。	ケアマネでは気付きにくい利用者の様子をもとに助言、提案頂いている。
定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている		○			会議等の場以外でも状況の変化に沿って積極的に情報提供を行っている。	実施されている。
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献								
利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)	○				担当ケアマネジャー、看護職員等と検討の上必要な利用者に対して、保険外サービスや配食サービスの利用を勧めている。	・介護職、配食サービス等の検討、利用等できている。・実施されている。

	26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている（※任意評価項目）	○				退院前カンファレンス等に積極的に参加し、情報の共有を行えている。	・退院前カンファレンスや担当者会議への出席をされており情報の共有が適切に行っている。・前向きに情報収集に取り組まれていると感じます。
多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている（※任意評価項目）	○				主治医や訪問看護師等、医療職との連携を特に重視し、利用者の心身の状況の把握に努めるようにしている。	・状況報告等を密に行っていることで在宅生活の継続につながっている。・専門職との連携以外の連携も必要に応じて実施して頂いています。・変化時にヘルパーから連絡を頂き医師とも連携できている。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画								
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案								
介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			閲覧可能な議事録を置いている。	ホームページに載せることの検討が必要ではないか。
	29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている		○			各介護事業所や近隣の病院等への訪問やパンフレットの配布、研修への参加等を積極的に行っている。	・退院前カンファレンス時などにパンフレットによる説明、広報活動を積極的にされている。
(2) まちづくりへの参画								
行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している		○			地域包括ケアシステムの中核的な役割を担っていると理解している。	

サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	○				限定しておらず、広くサービス提供を考えている。	・広くサービス提供されている。 ・実施されている。
安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等（保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等）が行われている（※任意評価項目）		○			全国の情報交換会にも参加し、他事業所のサービス状況や課題等を関係者間で共有している。	どの事業所においても具体的にどのように取り組んでいけばいいのか課題となっているように感じます。
Ⅲ 結果評価（Outcome）								
サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	○				利用者ごとの計画目標の達成が行えている。	柔軟な対応で課題解決に繋がっています。
在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	○				利用者、家族、ケアマネからも安心の声を頂いている。	・利用者家族からの安心の声をよく聞いている。 ・自身で状態の変化異変に気付けない利用者の代弁者となってもらい安心感があります。